



昭和36年頃の港。奥に三角屋根の漁協の魚菜市場が見えます。



昭和36年頃の港。高く積まれた木の魚箱の向こうには漁船がぎっしり並んでいます。



昭和34年夏 鉄鋼船に変わった天羽丸。



昭和30年頃(?) 天羽丸の待合所。苫前と両島、羽幌の三角航路の時代は、天羽丸の羽幌への寄港は夏期だけでした。



昭和30年頃 天売・焼尻に向かう木造船の天羽丸。



昭和13年 羽幌川尻から羽幌橋。川の両岸に船が並ぶ。

シリーズ②

平成25年4月、羽幌港の姿が新しくなります。

# 羽幌港のあゆみと新たな姿

昭和54年の羽幌川切替工事の開始とともに計画された「羽幌港長期整備計画基本構想」による羽幌港の形が、33年間の歳月をかけ、いよいよ完成の節目を迎えます。シリーズ2回目は、羽幌港の整備のあゆみをご紹介します。



## 昭和60年代～平成の整備 羽幌川切替～福寿川の整備 そして港の北側の整備が進む

昭和54年に羽幌川の切替が始まり、昭和55年には新北防波堤の整備が始まりました。平成2～3年には、羽幌川と福寿川の河口の間(写真中央部)に、四角く見える港湾用地、浜町の物揚場と荷さばき地の整備が進みました。(工事用の船などが

利用します)西防波堤も更に延長が進みました。白っぽく見えるフェリー岸壁の南側の港湾用地の整備も進み、平成16年にはホタテ関連施設が整備されました。



## 昭和7～30年代の整備 羽幌川河口を活用した整備～ 南北の防波堤と内港の基本形が完成

昭和7年、羽幌川河口を活用して南北の防波堤整備から始まった羽幌港の整備。昭和10年、港町船揚場と内港の北側の物揚場が整備され、羽幌港として一応の形が完成しました。昭和15年～18年には羽幌川を港の外に流し今の内港の形ができました。昭和20年代は主に内港の整備、30年代には西防波堤とその根元に船揚場の整備が行われました。



フェリーターミナル(現在①・新②) 漁協施設(現在③・新④)

## ～平成25年 耐震岸壁を備えた中央ふ頭が完成、4月供用開始 フェリーターミナルと漁協施設が移転します

写真は、陸側からの写真。西防波堤と新北防波堤が海に延び、内港を包み込むような形の羽幌港の全景です。ほぼ中央部には濃い色に、平成24年完成の耐震岸壁を備えた中央ふ頭。この4月1日にいよいよ供用開始です。今、新しくフェリーターミナルと北のもい漁業協同組合の事務所や荷さばき施設、直売所などの工事が進み、3月には完成、4月から羽幌港はいよいよ新しい時代のスタートを迎えます。羽幌港の新たな姿は3月号で詳しく掲載します。



## 昭和40～50年代の整備 内港の南側がフェリー岸壁と港湾用地として拡張整備

昭和40年代には、観光振興とともにフェリー岸壁と周辺施設の整備が進みました。写真中央部に工事中のフェリー岸壁が見えます。フェリー岸壁の右側も岸壁が整備され、港湾用の敷地として、昭和50年代も拡張が進みました。また写真左下には、港を守るための西防波堤の延長工事の様子が写っています。

昭和44年 完成時の漁協水揚げ施設

昭和45年夏 乗船する観光客の賑わい。この頃の船の待合は正面の三角屋根

昭和44年 新たな天羽丸就航、羽幌が両島航路の基地となる

昭和40年 羽幌港での石炭の積み出し

昭和39年 建築中の漁協冷蔵庫

